



サンビオティック農業で大豊作！

アスパラガス 栽培基準



◆定植年(1年目)◆

ステージ	内容	商品名	10a施用量・倍率	施用方法	備考
	播種	鈴成	育苗培土に対して 5～10%混和		鈴成を混和することにより、病気に強い苗を作ります。
	育苗	菌カアップ	200倍希釈	7日おきに灌水	菌カアップにより発根促進を図る。
定植2～3か月前	土づくり	完熟堆肥 有機石灰、またはスラグ肥料 菌カアップ	5トン／10cm耕深 200～400kg 10リットル×2回	土壌混和 土壌混和 全面散布	堆肥は、植物性が多くC/N比(窒素炭素率)が15～25程度のものが望ましい。耕起深度10cm当たり5トンを目安に施用する。(深耕30cmの場合15トン) 未熟堆肥やノコズ入り堆肥(木質チップ)しか入手できない場合は、定植の半年前には堆肥を準備し、菌カアップを散布して3～4か月堆積しておく。 あらかじめ圃場の土壌分析を行い、pHやカルシウム、苦土、および微量要素の含有量を分析しておくが良い。
		(土づくりアドバイス) ①アスパラは、非常に深い作土が必要であるため、排水性が良く、また暗渠排水のある圃場で、最低でも3年以上、アスパラを作付けしていない圃場を使用します。 ②地力のある圃場を作るため大量の堆肥を使用しますが、これが未熟堆肥である場合のリスクを減らすため、定植の2～3か月前には十分な量の堆肥を散布し、菌カアップ10L(200倍希釈)を堆肥の上に散布し、10cm程度耕します。 ③その2週間後に、再度菌カアップを同様に散布し、15～20cm程度深耕します。 ④そのまま1～2か月程度放置したのち、有機石灰またはスラグ肥料にてpH6.5になる量を散布し、30～40cm深耕します。			
定植前1か月	元肥	有機百倍 鈴成 水酸化マグネシウム	10袋 10袋 15～20kg	土壌混和	有機百倍は、マッスルモンスターでもよい。 く溶性苦土(マグネシウム)肥料を、苦土成分10kg/10a程度施用すると良いです。
定植後	生長促進	菌カアップ	5リットル	200倍希釈で灌水 7日おき4回以上	アスパラの元肥は、堆肥や肥料が他の作物より多いため、塩類障害になりがちです。菌カアップが、根を守り発根促進しますので、定植後は特に重要です。
生長期	追肥	有機百倍	1～2袋	土壌散布	生育、時期に応じて。
	生長促進	菌カアップ 糖カアップ	5リットル 5kg	200倍希釈で灌水 7日おき4回以上	糖カアップを加えることで、さらに生長促進します。特に春植えの場合は、夏の高温期に体力を消耗しやすいため、夏場の糖カアップが有効です。 水分を切らさないよう、水管理に注意します。
病害虫発生時	土壌病害の対応	菌カアップ 本格にがり	10リットル 2リットル	灌水(水1トン) 5日おき4回以上	立枯病、株腐病、茎枯病は、必ず初期症状で発見し対応する。殺菌剤等を使用したのち、菌カアップ、本格的にがりで病害の蔓延・拡大のリスクに対応する。
	茎葉病害、虫害の対応	本格的にがり 純正木酢液 コーソゴールド	2リットル 2リットル 2リットル	500倍希釈で灌水(水1トン) 5日おき4回程度	葉面散布でも大丈夫です。その場合は、にがり・木酢は1000倍、コーソゴールドは500倍希釈です。 にがり・木酢は細胞壁や繊維を強化し、コーソゴールドは光合成を向上させ、耐病性を高めます。
刈り取り1か月前	貯蔵根発達	コーソゴールド 本気Ca(マジカル)	500倍希釈 1000倍希釈	灌水または葉面散布 5日おき4回	リン酸、カリ、カルシウムを施用し、貯蔵根の発達を促します。貯蔵根の糖度はBR1X20～25度を目指します。

※地域、作型によって、時期が異なると思いますので、生育ステージで判断してください。

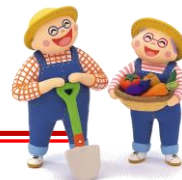
※可能であれば、土壌診断を実施し、データに基づいて施肥設計を行うことをお勧めします。

※品種や土壌条件等によって、施肥量は加減してください。

※(2年目以降)は、裏面(2枚目)へ続く

サンビोटニック農業で大豊作！

アスパラガス 栽培基準



◆(2年目以降)◆

時期	ステージ	商品名	10a施用量・倍率	施用方法	備考
1月	土づくり	五穀堆肥 有機石灰、またはス ラグ肥料 菌力アップ	50袋 100～200kg 5リットル	土壌混和 土壌混和 灌水	バーク堆肥等を2～3トン(五穀堆肥の場合は50袋)を施用する。土壌病害発生圃場では、「かにキング～」20袋を追加する。 あらかじめ圃場の土壌分析を行い、pHやEC、カルシウム、苦土、および微量要素の含有量を分析しておくが良い。
	春肥	有機百倍 鈴成 水酸化マグネシウム	2～3袋 5袋 10kg	土壌混和	有機百倍は、マッスルモンスターでもよい。 く溶性苦土(マグネシウム)肥料は、土壌pHが7.0以上ある場合は、硫酸マグネシウムに変更する。
2～3月	春芽	菌力アップ 糖力アップ 純正木酢液	2リットル 5リットル 2リットル	灌水(水1トン) 5日おきに継続	根の消耗を抑えつつ、萌芽を促進します。
4月	立茎	有機百倍 鈴成 水酸化マグネシウム	5～6袋 5袋 10kg	土壌散布	有機百倍は、マッスルモンスターでもよい。 く溶性苦土(マグネシウム)肥料は、土壌pHが7.0以上ある場合は、硫酸マグネシウムに変更する。
5～10月 収穫期	追肥	有機百倍 ※8月下旬 鈴成	1～2袋 5袋	土壌散布	有機百倍は、20日～30日おきに追肥する。 また、8月下旬ごろには鈴成5袋を追肥し、徐々に生殖生長型(貯蔵根の発達)に転換していく。
	生長促進 収量アップ 疲労回復	菌力アップ 糖力アップ	3リットル 5kg	灌水(水1トン) 7日おき収穫期 は継続	生長促進し収量を向上します。特に夏の高温期には体力を消耗しやすいため、夏場の糖力アップが有効です。 なお夏バテの場合は、純正木酢液3Lを追加して灌水する。
水害・湿 害発生 時	応急対策	酸素供給材 菌力アップ	規定量 10リットル	灌水 灌水2回	大雨水害等により冠水した場合は、MOXなどの酸素供給材を速やかに灌水し、翌日菌力アップ10L(50倍希釈)で灌水する。3日後、再度菌力アップ10L(50倍希釈)を灌水する。
病害虫 発生時	土壌病害の 対応	菌力アップ 本格にがり	10リットル 2リットル	灌水(水1トン) 5日おき4回以 上	立枯病、株腐病、茎枯病は、必ず初期症状で発見し対応する。殺菌剤等を使用したのち、菌力アップ、本格にがり病害の蔓延・拡大のリスクに対応する。
	茎葉病害、 虫害の対応	本格にがり 純正木酢液 コースゴールド	2リットル 2リットル 2リットル	500倍希釈で灌 水 5日おき4回程 度	葉面散布でも大丈夫です。その場合は、にがり・木酢は1000倍、コースゴールドは500倍希釈です。 にがり・木酢は細胞壁や繊維を強化し、コースゴールドは光合成を向上させ、耐病性を高めます。
刈り取り 1か月前	貯蔵根発達	コースゴールド 本気Ca(マジカル)	500倍希釈 1000倍希釈	灌水または葉 面散布 5日おき4回	リン酸、カリ、カルシウムを施用し、貯蔵根の発達を促します。貯蔵根の糖度はBRIX20～25度を目指します。

※地域、作型によって、時期が異なると思いますので、生育ステージで判断してください。

※可能であれば、土壌診断を実施し、データに基づいて施肥設計を行うことをお勧めします。

※品種や土壌条件等によって、施肥量は加減してください。

※「本格にがり」を多用した場合、病虫害に強くなる反面、アスパラガスが筋っぽくなる可能性がありますので、使用にはご注意ください。